



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2014～2015年度 RI会長 ゲイリー C. K. ホアン
RIテーマ ロータリーに輝きを

クラブテーマ「感謝の心で出席しよう」会長 矢岸貞夫

副会長 鈴木政則 幹事 小林 勝

第1220回例会 2015.3.6(金)曇

司会:岡 良森君 指揮:山口辰哉君
ロータリーソング「奉仕の理想」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央町ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 ブケ東海三島

TEL.055-984-0120

毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 矢岸貞夫君

皆さん今晚は、東日本大震災から4年経ちます、復興支援について話させていただきます。当クラブは震災の生々しい映像をみて会員の間でなにか支援が出来ないかを考え、発生5日後には支援物資を届けました。その後「東日本大震災復興支援委員会」が発足され、現在まで4年に渡り支援を続けてまいりました。今、東日本大震災の被害や教訓を伝えていくため、三島市役所玄関ホールにおいて震災被害の写真パネルを展示しています。3月9日(月)～20日(金)まで開催されますので、是非多くの人に見てもらい、この出来事を忘れないでほしいと思います。今、求められているのは、お金や物ではありません、心の支援です。我々ロータリークラブも今後とも出来る限りの支援を続けてまいりたいとおもいますので宜しくお願ひ致します。テーブル会の会話のなかで当クラブの会員の方の実家が福島にあり実家の農地も除染が必要であることや、その除染についての話しを聞きましたので、私も「除染」について調べてみました。「除染」とは

生活空間において受ける「放射線」の量を減らすために「放射性物資」をとり除いたり、土で覆ったりすることです。生活空間の「放射線量」を下げるために、「取り除く」「さげざる」「遠ざける」の三つの方法を組み合わせて行います。

「除染はなぜ行うか？」

放射性物資は時間とともに減少し、また風雨などの自然要因による減衰効果もあるため、除染しなくても生活空間の放射線量は減っていきます。汚染の状況などによっては長い年月がかかる場合もあるため、地域の実情や汚染の状況に応じて除染が必要です。国が責任をもって除染に取り組みます。放射性物質汚染対処特措法に基づき、除染を進めていく地域は、国が主体となって除染を進める「除染特別地域」、市町村が主体となって必要な区域について除染を進め、国が予算と技術面などで責任を持つ「汚染状況重点調査地域」に分けられます。

「避難指示の基準である、年間20ミリシーベルト」とは

チェルノブイリ原発事故においては、事故直後の1年目に年間100ミリシーベルトを避難基準として設定され、その2年後に30ミリシーベルト、3年～4年目に25ミリシーベルト、5年目に20ミリシーベルト、6年目以降に5ミリシーベルトと、避難指示

の順次引き下げが行われました、よって、放射線防護に関する国際基準である、最も厳しい値に相当する年間20ミリシーベルトを避難指示の基準として採用されました。20ミリシーベルトを超えると想定された「計画的避難区域」と、福島第一原子力発電所から半径20キロメートル圏内の「警戒区域」にされた区域を除染特別地域とされ国が除染関連事業を進める地域として、法律に基づき指定されています。

各市町村の状況に応じて、復興の動きと連携した除染が推進されています。まだまだ十分な復興が進まれないような気が致します。すこしでも早く被災地の皆さんに平和な日々が訪れますことを祈ります。

出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	29/36	80.56%	33/36	91.67%
今回	26/37	70.27%	会員総数	39名

欠席者 あなたが見えなくて残念でした。

石井(司)君、内田君、遠藤君、大房君、加藤君、小島君、杉山(順)君、杉山(隆)君、山田君、米山君、渡邊君

おめでとう

会員誕生日 1月26日 澤田 稔

第9回理事役員会報告

平成27年3月6日 金曜日・19時30分 より

ブケ東海三島

出席者・矢岸貞夫 小林 勝 鈴木政則 石井邦夫
山本良一 土屋 巧 望月保延 服部光弥
中村 徹

司会者・小林 勝

①東日本大震災復興支援委員会 継続するかどうか
社会奉仕委員会に組み入れる。

事業として「パネル展」を各地域で開催、予算を組む。

卓話

「ロータリー 私にとって何……」

鈴木政則君

多くの仲間を作り、又、私にとっては修行の場かな。異業種の経営者の色々なお話を卓話で聞く事ができ、自分の職業以外の知識や情報を得る事ができます。まさに異業種交流会ですね。企業経営者と親睦を深めることで、切磋琢磨し、自分自身を高めることができます。又、ボランティア活動により地域社会に貢献することもできます。時には各委員長を仰せつかり、自分で計画を立て、実施し、各委員の方々の協力のもとで事業が進められていきます。そして自分自身の反省と会員の皆様との助け合いにより一層、絆を深くしてくれると思います。ロータリー奉仕の理想は、「他人に対する思いやりの心」すなわち「奉仕の原点…助け合いの心」を磨いていくことだと思います。

今から10年程前、姉齒元一級建築士による構造計算書の偽造が発覚したことにより、建築業界に大きな衝撃が走りました。当時このニュースを知った私は、身が震えるような思いでした。その事件を境に、建築基準法が根本的に改正され、建築に携わっている私達を取り巻く業務も大きく変わっていくこととなりました。2007年には建築基準法、2008年には建築士法が改正され、構造計算適合性判定や建築確認の厳格化、構造一級建築士の導入が定められたほか、改ざん防止機能付きの新たな構造計算プログラムが導入されるなど、さまざまな対応策がとられました。設計は建築士の責任で図面を作成すること、工事監理は建築士の責任で工事監理をすること、お客様としっかり設計契約・工事監理契約をしてから業務に入る事が法律で決められました。法律改正前は、施工会社から設計の依頼があれば、施工会社と設計契約を結んでおりましたが、それは法律に違反します。改正後は施工会社と契約するのではなく、直接お客様と仕事の範囲を決めて、設計及び工事監理の契約をすることが法律で決まりました。これはトラブルが発生し裁判となった際、設計をした建築士と工事監理をした建築士の責任が問われることとなります。改正前は施工会社からきた仕事は、誰が責任をとるのか明確ではありませんでした。改正後は責任の所在がはっきりと明記され、建築士に対しての責任も重くなりました。しかし、それによって建築士の存在感が世の中に認められるようになったのではないかと私は思います。

建築設計事務所は別に売れる商品があるわけではありません。昔は営業マンを雇って営業活動をした時期もありましたが、なかなか契約に結びつくことが困難でした。しかし建築に対する私の持っている知識、アイデア、技術力を提供することで自分を知ってもらい、信頼関係を築いて仕事に結びついていくことができるようになりました。それによりお客様からも安心して建築の依頼をしていただけるようになりました。人と人との出会いを大切に、奉仕の原点、助け合いの心が大事だと気づかされました。

スマイルボックス

矢岸貞夫君:今年度も残り3分の1となりました。頑張ります。

山田定男君:本日、三島市役所玄関ホールに東日本大震災パネル展展示完了しました。パネル展開催に当たり多数ロータリアンの協力を頂き出来上がりました。有難うございました。メインパネル作成にあたりましたサインズアースの杉山様には特価にて協力して頂きました。感謝します。皆様ぜひ三島市役所玄関ホールにお出かけ下さい。

鈴木政則君:兼子さんの代わり、私が卓話をします。よろしくをお願いします。

澤田 稔君:皆さんの活用あるお願いを拝見しました。スマイルします。

Aテーブル:テーブル会の残金をスマイルします。

久保栄子君:先週のEテーブル会では男性の魅力たっぷりの方々とグローバルな話の数々をきかせていただき濃厚な(笑い)時間でした。

Eテーブル:先週Eテーブル会でした。特別ゲストで兼子パスト会長がご参加下さり大変意義あるテーブル会でした。残金スマイルします。

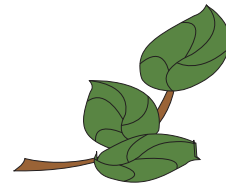


PHOTO GALLERY

